

一般社団法人

日本人間関係学会ニュース 第104号 発行日:2023.2.23

News No.104 Japan Association of Human Relations February 23,2023

発行: 日本人間関係学会 広報委員会 E-mail: tanikawa@kusw.ac.jp 関西福祉大学 谷川和昭研究室
事務局: 〒799-2496 愛媛県松山市北条660 聖カタリナ大学人間健康福祉学部 釜野研究室
E-mail: jahrijimukyoku@gmail.com URL: <https://jahr.jp/>

[内容] ☆巻頭言 ☆大会特集 ☆北から、南から ☆順子の映画鑑賞記⑧ ☆近刊著書紹介 ☆次回大会 ☆事務局日より

《巻頭言》

日本人間関係学会第30回記念全国大会開催のご報告

大会長・理事長 早坂 三郎
(甲子園短期大学学長)



第30回記念全国大会は令和4年12月3日①に甲子園短期大学を会場として「変革期の社会を考える ～安全と安心のためのコミュニケーション～」のテーマのもと、3

年ぶりに対面で2日間の通常のスケジュールを1日に短縮して開催しました。

その内容は、開会式挨拶と基調講演「変革期の社会とは」を早坂が、続いてのメディエーション講演「対立から対話へ～紛争解決の手法～」を津田尚廣弁護士（ピアメディエーション学会専務理事）が、そして昼食を挟んで本学会と甲子園短期大学共催の公開講座「料理学とコミュニケー

ション」を土井善晴先生（料理研究家）に講演頂きました。公開講座への出席者は、学会及び招待者と一般市民参加者、そして甲子園学院関係者を合わせて今回の設定上限に達する約150人でした。記念写真撮影の後、大会の華である口頭研究発表・口頭実践発表を3教室に分かれて行ないました。

総会では事業報告・計画について理事長から、また会員数と会計年度の期間変更等について森事務局長から其々説明があり、そして第31回全国大会について田中康雄次回大会長から西南学院大学で開催する旨の案内と勧誘があり、全てを終了しました。その後に感染拡大の報がなかったことに安堵していますが、久しぶりの会話は学会活性化への大きなエネルギーとなりました。

日本人間関係学会第31回全国大会の開催について（お知らせ）

会期 2023年9月9日（土） 会場 西南学院大学（福岡市） 大会長 田中康雄（本会理事）

大会テーマ With コロナ時代における対面コミュニケーションの重要性と人間関係の構築に向けて

〔参加・発表申込/原稿提出締切〕 2023年5月15日（月）

（詳細は、学会公式HPをご参照ください。 <https://jahr.jp/31taikai/>）

大会特集 第30回記念全国大会 「変革期の社会を考える～安全と安心のためのコミュニケーション」

2022年12月3日、甲子園短期大学にて3年ぶりの対面での開催となった日本人間関係学会第30回記念全国大会は、2日間のスケジュールを1日に集約して遂行されました。コミュニケーションと人間関係がいかにかこれからの社会にあって重要であるか、そしてそのあり方について共に考える機会となりました。



基調講演では、「変革期の社会とは」と題して、甲子園短期大学学長の早坂三郎先生（本学会理事長）が世界的、人類的な観点から人間関係とコミュニケーションの必要について講じました。（中段写真・左）

メディエーション講演では、「対立から対話へ 紛争解決の新技术」と題して、一般社団法人日本ピアメディエーション学会専務理事の津田尚廣氏が、教育現場、学校現場でのトラブル解決、職場でのメンタルヘルスの観点から考察しました。（中段写真・右）



甲子園短期大学との共催でおこなわれた公開講座では、「料理学とコミュニケーション」と題して、最近、ドキュメント番組の情熱大陸にも出演されていた料理研究家の土井善晴氏が、人間が人間をたらしめる料理、生きていくのに不可欠な労働、この2点が人間を人間たらしめていると強調しました。（下段写真・右）



大会の華である研究発表・実践発表では計9題が演じられ、参加者は3年ぶりの対面発表に聞き入っていました。当日の演題は以下のとおり「A 福祉」「B 教育」「C 社会・実践」と3会場に分かれて行われました。

口頭研究発表・口頭実践発表

A 会場：福祉（302 講義室）

座長：三好明夫（京都ノートルダム女子大学） 副座長：森千佐子（日本社会事業大学）

A1 消滅危惧集落で生きる 80 歳以上一人暮らし男性高齢者のこころの揺らぎ

○藤川君江（松本看護大学）

・緒方浩志（九州看護福祉大学）・宮坂光長（松本短期大学）・上里彰仁（国際医療福祉大学）

A2 外国人技能実習生が認識する職場内教育体制における課題の特定

○田中康雄（西南学院大学）

A3 保育所と他機関連携に関する研究課題の特定

○竹下徹（周南公立大学）

・牛島豊広（周南公立大学）・田中康雄（西南学院大学）・永野典詞（九州ルーテル学院大学）

B 会場：教育（303 講義室）

座長：占部慎一（研究委員会委員長） 副座長：山崎将文（京都橘大学）

B1 思春期に世界が「気持ち悪く」見える体験

―上田閑照の存在論的思索を手掛かりとして―

○加藤誠之（高知大学教育学部）

B2 身体症状を鑑みた不登校政策に関する課題の検討

―施策に届かない不登校生―

○田中典子（公立中学校スクールカウンセラー・法政大学院博士後期課程）

B3 地域にねざした教育の意味

―森尚水の日刊地域新聞「うらどっこ」を題材として―

○藤田毅（太平洋学園高等学校）

C 会場：社会・実践（304 講義室）

座長：佐々木かなこ（阪南大学） 副座長：鈴木満（コーチング研修会社ドリームフィールド）

C1 お金がりスクテイキングに及ぼす影響

―お金を見るとリスクある行動を取りやすくなるか―

○岡村靖人（京都経済短期大学）

C2 文系学部における初年次一般情報教育の現状と課題

―情報教育に対する習得意識と学習経験の調査から―

○近澤優子（甲子園短期大学）・森山潤（兵庫教育大学）

C3 介護職員メンタルヘルスケア研修の構築に関する研究

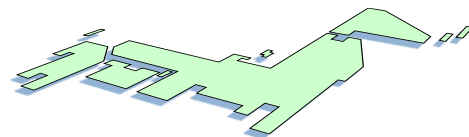
―オンラインメンタルヘルスケア研修の実践―

○近藤重晴（東京福祉大学・同朋大学大学院）



北から、南から

「今」に集中すれば、結果は必ずついてくる



学生たちから学ぶ

黒木真吾(中九州短期大学 経営福祉学科)

2022年度もうすぐ終わりを迎えます。1年というのは早いものです。私は、現在の短期大学で介護福祉士の養成をしながらボランティアサークルの顧問をしています。メンバーは介護福祉士コースに所属する1年生のみ7名です。毎年入学してくる学生の個性が違い、いつも新たな発見の連続ですが、今年はいつもの以上に積極性のある学生が多いです。

サークルメンバーは2022年4月から短大の講義を受けながら平日は空き時間に学内清掃、休日はデイサービス、障がい者事業所といった勉強につながる場所でのボランティア活動に取り組みました(写真参照)。学生は介護福祉士受験資格取得のため、夏と冬に実習に臨みます。その事前学習として貴重な経験を積んだことで「実習前に経験しておくことで安心して実習に入ることができた」といった声もあがっていることからボランティア経験が学生にとっての学びになっているようです。

さらに、学内清掃に関して学生たちは入学当初は、顧問からの勧めで行っていたのですが、いつしか部長を中心に「今月は〇月〇日に駐車場前を掃除しようと思うけどみんなできる？」などといった話し合いをしながら自主的に取り組んでいます。世のため、人のためにみんなで協力し継続して行うといった意識の高さがうかがえます。私は、そんな学生をみて「私の学生時代はどうだったかな」と考えますが、こんな行動力はなかったです。そういった意味で私自身も教員という立場でありながら学生たちから大切なものを学ばせてもらっています。

サークルメンバーは4月より2年生(卒業年)になります。ボランティア経験をこれからも継続し、講義、実習、就職活動、介護福祉士国家試験勉強に活かし、新入生にもその背中を見せながら引っ張ってほしいと思います。これからの福祉業界の活性化につながることを願って。

「ボランティア活動(デイサービス)」



ブルース・リーの思想

竹村泰央(高知県立希望が丘学園 児童指導員)

怪鳥といわれる雄叫び、圧倒的な肉体美、そこから繰り出される驚異的なカンフーの技。

社会にはびこる差別や偏見、理不尽な社会現象を吹き飛ばし、しかもそうした邪悪なものを滅ぼした後に残る哀しみに満ちたドラゴンの憂い。映画史上に燦然と輝く彼の姿は現代にも通じる存在であり思想です。

あの当時、全世界の男の子を始め、内戦下にあった人々、理不尽な差別に苦しむ人々にとっても、彼の存在、思想は人間社会にはびこる既存の概念を覆す圧倒的なパワーとして受け入れられました。もしご覧になっていない方がいるのなら全力でお勧めです、個人的には「ドラゴンへの道」がベストです。

人間関係学会・学会ニュースに相応しいネタとして、このテーマを挙げるにはちゃんと理由があります。

それは「なんのために勉強をするの?」といった素朴な疑問にブルースの思想や生き様がピッタリと当てはまるからです。

彼は、白人系中国人として生まれ、生き延びる手段として英国支配の香港でカンフーを見に付け、アメリカの大学で哲学を学び、芸能の世界に活躍の場を得るも、何処の社会でもありがちな偏見によって、疎外され居場所を追われてしまう辛い過去を背負っています。

ようやくチャンスを得たものの、僅か4本(死後に5本目)の映画を残し早世してしまいます。が、そこには「なによりも自由であることの大切さ」という作品に込められた普遍的なメッセージがあり、その哲学的思想を背景に触発され世界的な大ブームを巻き起こしました。

あまりにも有名なセリフに「Don't Think Feel」がありますが、あまり知られることのないセリフとして、伝統としてのカンフーの型に固執することを徹底して避け、形に捕らわれることのない自由な動きを追い求めた彼の思想を現すものとして「Be Water My Friend」というものがあります。

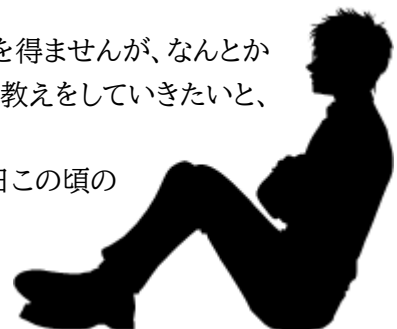
水は柔らかい物質ですが、同時に岩をも砕く強さがあり、捕まえることもできず破壊することもできません。そしてどんな器にも姿形を変えて順応することができ、離れ離れになることも一つになることもできる。こうした水の特徴にこそ、カンフーの技にも人間の生き方にも通じるものがあると考えていたそうです。

つまりそこには、人間は生まれながらにこの世界に存在するあらゆる制約を甘んじて受け入れざるを得ない弱い存在であるものの、あらゆる可能性や希望に満ち、人種や思想、文化の違いも超えて一つになれる、自由なる存在である、という思想が貫かれているのです。

現実として、現代に生きる多くの子どもにとっての学校や勉強は、残念なことに自らの自由を奪う場所や存在として捉えられてしまっています。が、本質的には学校や勉強こそが、この制約の多い社会においてあらゆる可能性に満ち、自由に泳ぎ回れる技を身に着けることのできる場所であり手段になり得るものであると考えることができます。(多くの学校や子ども達にとって、現実にはとてつもなく難しいことですが)

ということで現実には、私に関わる教室という狭い範疇にならざるを得ませんが、なんとかそうした教えができる教室に変えていき、そうした考えを下敷きにした教えをしていきたいと、いつも強く願っています。

偉大なヒーロー、ブルース・リーの思想に勇気づけられる、私の今日この頃のちっぽけな思いです。



北海道の障害者施設での不妊処置から問われるもの

石黒慶太(神戸大学大学院博士後期課程)

昨年(2019年)の12月、北海道江差町の障害者施設で、知的障害者カップルが結婚や同居を望んだ場合、施設側が家族同席のもとで本人たちに不妊処置を提案していたことが報道されました。

この報道を知った時、驚きや怒り、そして悲しみといった感情が生起しました。私は、知的障害のある成人男性の性的欲求について研究しております。今でも、この実態は看過すべき問題ではないと捉え、思考し続けております。この件について、多くの方々も私と同様、驚きや怒り、そして悲しみといった感情が生起し、当該障害者施設が行っていること(行ってきたこと)について批判する姿勢をもったのではないのでしょうか。また、実践の現場で障害者と関わっている人たちに対し、障害者の人権を閑却し得ない問題と理解し、自らの権力性についての気づきを求めているのではないのでしょうか。

この報道の数日後、友人が同じ報道を知ったようで、以下のメールが届きました。

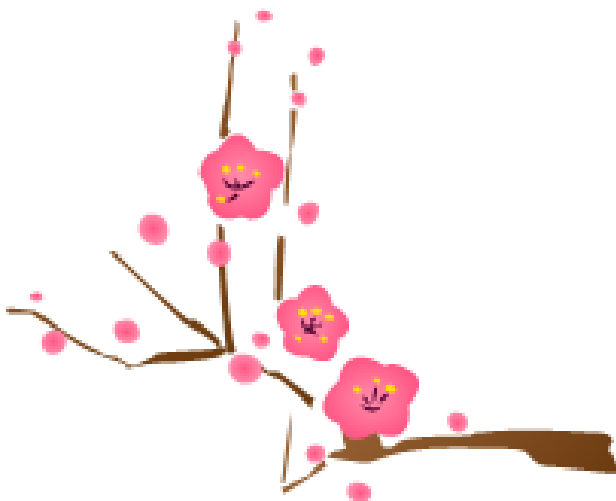
『私たちの内なる優生思想に意識的になるべきだ』

たしかに、本件を自分とは関係のない所で起こっている事象として捉えるのではなく、自分自身にも内在しているであろう障害者に対する差別性や抑圧性について、意識的になることは重要であり、否定できません。この意識をもつことが、自己を対象化することにつなげ、健常者としての自己と障害者との関係性の捉え直しに導くと考えられるからです。

しかし一方で、報道された施設を取り巻く社会制度や社会システム、そして国がこれまで、障害者が安心して結婚したり、子育てができたりする法整備をしてきたのか、ということについても考えていく必要があるのではないのでしょうか。そして、社会的マジョリティとして生活している(生活できている)健常者としての私たち自身は、障害者が安心して結婚したり、子育てができたりする社会について思考し、そういった社会を目指してきたと言えるのでしょうか。

当然、当該施設が行ってきた不妊処置は批判されるべきです。しかし、同時に、マジョリティである健常者として生活している私たち一人ひとりが、実は、障害者が生きにくい社会を支えてしまっているのだと自覚する必要があると思います。

私たちは『私たちの内なる優生思想に意識的になるべきだ』という言葉によって、障害者差別について意識的になることにとどまらず、社会に対し、誰もが生きやすいを目指すべきだ、そういった社会にしていこうではないか、と声を上げる必要があるのではないのでしょうか。人間関係学には、この問題についても取り組んでいく意義があると考えております。



「自分のレベルを上げる」「自分を変える」ために どうすれば良いのか

清川照美(株式会社タイヨー 取締役副社長)

もし、自分がこんな性格だったら。もし、自分がこんな事が出来る人間だったら。私はもっとこんな人生を歩み、こんな人になれたのにと、多くの人は言い訳をします。変われない事を言い訳に、自分自身を変えようとはしない人たちが、あまりにも多いです。

では、どうすれば変われるのか。答えは一つ。正しい習慣を一つずつ作っていく事です。歯磨きと一緒に。毎日続けることを一個でも増やす事が出来れば、間違いなく人は変われるのです。

人から見て私はどのように見えているか分かりませんが、気持ち四十五歳、戸籍年齢六十五歳。年間を通しての習慣、週で決めている習慣、日々で、お風呂で、朝起きてから、夜寝る前に、そして出張先で、色々な習慣を持って生きています。では、大変な事をしているかと言うとそうではなく、歯磨きと同じレベルです。

例えば、年間を通しての習慣。一月には、応接間に行っている書斎を丁寧に、棚の中の引き出しまで出してすべて整理をします。年間百冊ほどの本を読みますので、百冊ぐらいは捨てるか、貰っていただきます。このように、各月で部屋の掃除をしていきます。週単位では、月曜日に一週間分の食事と下ごしらえ、常備菜を作ります。これも三十年以上続けています。日々のルーティンとしては、朝、夕に一階、二階、玄関の入口、床をモップ掛けし、鏡、窓、シンク、トイレと一回三十分ぐらいで日々続けています。お風呂は一日二回、朝、夕に入ります。私は基礎体温が低く、体温を上げるためです。三十五度代だった体温が、十年ほどで五分ぐらい上がり、今はとても元気です。夜は半身浴をしながら、五十ページ本を読みます。昨年からは、お気に入りのバックを朝、夕毎日しています。少しはシミが薄くなってきました。歯磨きしながら、電気のお腹ブルブルを使っています。東京出張の時は、必ずプールとジムに行きます。とにかく、地味に続ける事です。毎年一個でも何かをプラスして、続ける。小さい習慣を持って、三日坊主を続ける事です。人間は当たり前ですが、食事をして排泄をします。トイレに入ったら必ず何かをする、例えば本を一ページでも読む。気づいたら、一冊の本を読み終えています。本当に小さい事の積み重ねです。

自分を変えようと思うなら、小さなこと一つでも習慣を作ってみる事。小さな習慣一つで、人は大きく変われると思います。人生で今日が一番若いのです。

学会ニュースは年2回発行(2月・8月)

「北から、南から」の原稿は会員であれば、どなたでも投稿できます。

お寄せいただきたいのは、**400～1,000文字**程度です。多少オーバーしても大丈夫。

日々の生活で感じたことや、思い浮かんだこと、作品などお便りに載せてください。

1月末までの投稿分は2月発行のニュースに掲載されます

7月末までの投稿分は8月発行のニュースに掲載されます

送付先 広報委員会(谷川)まで tanikawa@kusw.ac.jp

順子の映画鑑賞記

第8回 戦争と映画

-映画が戦争を描くことの意味- 橋本順子



2022年2月に始まったロシア軍によるウクライナへの軍事侵攻。その戦況をTVや新聞で見聞きするたびに、この戦争がいつ終わるのか、どうすれば終わるのか、未だ終わりの見えない状況に愕然とした思いに陥ります。

今回は「戦争」が描かれている映画を紹介いたします。もちろん、戦闘そのものを描いたものや戦時下の日常を描いた作品など数多とあります。表現方法の違いがあっても「戦争」を描くことによって、いわゆる「良い戦争」はありえない、その思いに至ることそれが映画の使命であると考えています。

以下の作品は、(あまりにも膨大な数ゆえに)2015年以降に上映された中で、私が鑑賞して印象深かった10作品です。

- ① 「アメリカンスナイパー」 2015年公開。アメリカ製作。イラク戦争を描く。過酷な戦場を生き延び、妻子のもとへ帰還した後もぬぐえない心の傷に苦しむことになる主人公を描く。実話。
- ② 「ヒトラーの忘れ物」 2016年公開。デンマーク・ドイツ合作。第二次大戦終了後、デンマークの海岸地帯の地雷撤去を強制されるドイツの少年兵の過酷な運命。実話。
- ③ 「この世界の片隅に」 2016年公開。広島から呉に嫁いできた18歳のすず。戦況の悪化で配給物資が減るなか、様々な工夫を凝らし生活していく日常が描かれる。
- ④ 「ハクソー・リッジ」 2017年公開。アメリカ製作。沖縄戦時、信仰(セブンスデーアドベンチスト)ゆえに誰も殺さず、武器も持たずに、衛生兵として負傷した兵士を敵国関係なく助けた兵士の実話。
- ⑤ 「名もなき生涯」 2020年公開。アメリカ・ドイツ合作。第二次大戦時のオーストリアで、ヒトラーへの忠誠を拒み、信念に殉じた一農夫の物語。実話。
- ⑥ 「スウィング・キッズ」 2020年公開。韓国製作。朝鮮戦争中の捕虜収容所でのダンスチームを描いた作品。白人も黒人も朝鮮人、中国人、も関係なく。「fuckin' ideologie!」
- ⑦ 「ジョジョラビット」 2020年公開。アメリカ製作。第二次大戦下のドイツに暮らす少年とユダヤの娘の触れ合いが描かれる。戦争の滑稽さを少年の目を通してコミカルに描く。
- ⑧ 「異端の鳥」 2020年公開。チェコ・スロバキア・ウクライナ合作。第二次大戦中、ホロコーストを逃れて疎開した一人の少年が、差別や迫害に抗いながら強く生きていく姿を描く。
- ⑨ 「アウシュビッツレポート」 2021年公開。スロバキア・チェコ・ドイツ合作。アウシュビッツ強制収容所を脱走した二人の若いユダヤ人が、施設内の現状を記した報告書を提出。そのレポートにより12万人のユダヤ人の命が救われた実話。
- ⑩ 「戦争と女の顔」 2022年公開。ロシア製作。兵士として従軍した女性。第二次大戦後のソ連(現ロシア)でPTSDに苦しみながら生きる女性の姿を描く。

私にとっての印象的な戦争映画と言え、かなり前の作品となりますが、「ディアハンター」(1978年)、「プラトーン」(1987年)、「プライベートライアン」(1998年)ってところでしょうか。

翻って考えてみて、私たちは過去の戦いの歴史から何を学んできたのでしょうか。何が変わったのでしょうか。変わらないのでしょうか。今の時代だからこそ、観てほしい戦争を描いた作品です。

2022年度 私のおきベスト20

(リバイバル、ドキュメンタリー作品は含まず)
映画グループに提出したリストです。

- | | |
|----------------|-----------------------|
| ① トップガンマーベリック | ⑪ ブラックパンサー ウガンダフォーエバー |
| ② 彼女のいない部屋 | ⑫ ナイトメア・アリー |
| ③ スティルウオーター | ⑬ ブルーバイユー |
| ④ ひかり探して | ⑭ ゴーストバスターズ アフターライフ |
| ⑤ ザリガニの鳴くところ | ⑮ ウェストサイドストーリー |
| ⑥ キングメーカー | ⑯ 白い牛のバラッド |
| ⑦ プアン/友だちと呼ばせて | ⑰ ゴヤの名画と優しい泥棒 |
| ⑧ 渇きと偽り | ⑱ 天上の花 |
| ⑨ ある男 | ⑲ キングスマン ファーストエージェント |
| ⑩ コーダ あいのうた | ⑳ 潜水艦 クルスクの生存者たち |

学会員の近刊著書紹介

田中康雄著『介護職員の定着をいかにして図るか』

エビデンスをもとに探る老人ホームの組織マネジメント理論

(ミネルヴァ書房、2023年2月刊行) 4,180円(税込)

内容紹介(出版社より)

介護人材の不足は深刻化しており、介護老人福祉施設の介護職員の離職を防止する対策として一刻も早く具体的な取り組みを提案することが必要となっている。本書は、経験や感覚ではなく大規模調査によるエビデンスに基づき、また全施設一律ではなく従来型・ユニット型それぞれの形態の介護労働環境に着目した考察により、介護職員が離職に至る過程を実証的に分析。「老人ホーム」の組織マネジメントを考えるためのヒントを示す。

目次

はじめに

第1章 特別養護老人ホームで介護職員の離職防止が必須となる背景

第2章 各施設形態における介護職員の離職防止に向けた先行研究の整理

第3章 本書の目的と構成

第4章 介護職員の仕事上のストレスに関する調査研究

第5章 教育・研修の取り組みと離職率に関する調査研究

第6章 リーダーシップおよびコミュニケーション・スキルと就労継続意識に関する調査研究

第7章 介護職員の離職防止対策に向けて求められること

第8章 今後の展望と本書の研究の限界

第9章 外国人技能実習制度の可能性

おわりに

索引

介護職員の定着を いかにして図るか

エビデンスをもとに探る老人ホームの組織マネジメント理論

田中康雄
[著]



TO RETAIN CARE WORKERS
Evidence-Based Organizational Management Theory
of Nursing Homes for the Elderly

ミネルヴァ書房

2023.9.9(土)

<10:00~17:00>

第31回全国大会

一般社団法人
日本人間関係学会



テーマ「Withコロナ時代における対面コミュニケーション
の重要性と人間関係の構築に向けて」

大会長 田中 康雄（西南学院大学人間科学部）

場所：西南学院大学 西南学院百年館

日時：2023年9月9日(土) 10:00~17:00（受付9:30~10:00）

（シンポジウム、口頭研究発表・口頭実践発表、交流会、総会〔予定〕）

※詳細は日本人間関係学会ホームページにて公開予定（1月下旬頃）

**申込
締切**

「参加申込」・「発表申込及び原稿提出締切」：

【2023年5月15日(月)まで】

第31回全国大会事務局
31zenkokutaiikai@gmail.com

西南学院大学 田中康雄研究室
福岡県福岡市早良区西新6-2-92

(当日のプログラム＜詳細＞)

- ・ 9:30～10:00 受付 (BGM: 大会公式イメージソング「北風ロマンス」 楽曲提供: 山本絵夢
[東京シュガーキャッツ Vo.Gt.]

- ・ 10:00～10:10 開会と諸案内

総合司会

コーチング研修会社ドリームフィールド

ビジネスコーチ 鈴木満 氏

(日本人間関係学会理事)



- ・ 10:10～10:20 開会挨拶

大会委員長

西南学院大学 人間科学部

准教授 田中康雄 氏

(日本人間関係学会理事・
学会誌編集委員会委員長)



- ・ 10:20～11:20 シンポジウム (地域共生社会における人間関係のあり方)

＜パネリスト＞

- ・ 甲子園短期大学

学長・教授

早坂三郎 氏

(日本人間関係学会 理事長)



和洋女子大学

家政学部

教授 丸谷充子 氏

(日本人間関係学会
監事)



- ・ 社会福祉法人新生福祉会

理事長

山中康平 氏

(日本人間関係学会 監事)



＜コーディネーター＞

聖カタリナ大学

人間健康福祉学部

教授 釜野鉄平 氏

(日本人間関係学会
事務局次長)



- ・ 11:20～11:30 休憩

- ・ 11:30～12:50 地域共生社会に向けた福岡市早良区西新の地域実践と会員交流 (昼食含)

＜コーディネーター＞

- ・ 周南公立大学

福祉情報学部 准教授

竹下徹 氏

(福岡県出身)



周南公立大学

福祉情報学部 准教授

牛島豊広 氏

(福岡市元在住)



※本企画では、会場校のある西南学院大学が所在する福岡市早良区西新の地域実践に向けて、歴史的背景や地域の特徴に触れ、併せて、実際に地域を会員同士が交流しながら、地域を散策し、地域を理解するプログラムである。

⇒なお、会場内では、コロナウィルス感染症対策のため、昼食等の飲食ができません。

代替として、本企画の地域散策の際、会員同士が交流しながら、地域の飲食店街にて昼食をとるプログラムとなっています。



事務局だより

【会員動向】（2022年8月21日～2023年2月10日）

2023年2月10日現在

会員123名（正会員：104名 一般会員：9名 準会員：10名 賛助会員：0）

〈入会者〉 正会員：3名 ・吉田 景一 ・岡村 靖人 ・黒木 真吾（敬称略）

〈退会者〉 2名（正会員：1名 一般：1名）

巻頭言にありました通り、2022年12月に、第30回記念全国大会を3年ぶりに対面で行うことができました。記念大会を対面で開催できたのは、コロナ禍においても全国大会を中止することなく、誌上発表やオンラインなどの工夫をし、第28回、第29回の全国大会が行えたおかげとっております。大会長はじめご協力・ご参加くださった皆様に感謝申し上げます。次回の第31回全国大会も対面で予定されており、新たな企画もあります。皆様とお会いできることを楽しみにしております。

事業年度・会計年度につきましては、2023年3月31日で、2021・2022年度が終了します。4月に2023年度会費のご案内をいたしますので、会費納入について、ご理解とご協力をお願いいたします。

第31回全国大会開催にあたって

一般社団法人 日本人間関係学会
（日本学術会議協力学術研究団体）
大会長 西南学院大学 田中康雄

第31回全国大会を下記日程にて対面形式で開催することとなりました。今回のテーマは「With コロナ時代における対面コミュニケーションの重要性と人間関係の構築に向けて」です。本大会のシンポジウムでは、地域共生社会における人間関係について、複数のシンポジストが異なる視点から報告を行い、参加者を交えて議論を重ね、日本人間関係学会が捉える「地域共生社会における人間関係のあり方とは何か」を考えていきたいと思います。

研究発表につきましては、研究発表・口頭実践発表を設定し、発表15分、質疑応答5分の計20分の時間を予定しております。

本大会が、学会の会則で定められた「様々な背景をもつ人々が共に集い、人間関係の充実・促進・創造を図る。豊かな人間関係の創造について、学際的研究・交流を深める。人間関係の危機の回復やよりよい発展を実現できる手掛かりや可能性を探究し、現実の人間生活の発展に貢献する。」という目的を達成するために有意義な大会となることを願っております。

多くの会員の皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

【開催日時】2023年9月9日（土）10時00分～17時00分

【会場】西南学院大学 西南学院百年館 〒814-8511 福岡市早良区西新6-2-92

【参加・発表申込/原稿提出締切】2023年5月15日（月）※詳細はホームページで確認してください

（編集後記）

第30回記念全国大会が2022年12月3日に甲子園短期大学にて開催された。3年ぶりの対面開催でもあり、参加を心待ちにしていたのだが、開催数日前に濃厚接触者となり自宅待機を余儀なくされた。しかしS先生、T先生が当日の様子を送ってくださり、大会の雰囲気を感じることができた。御礼申し上げたい。（谷川和昭）